



「浦和のさかえに 歴史をほこる」開校155周年YEARを迎えて

大いちょう

令和8年1月8日
さいたま市立高砂小学校

高砂小学校だより 令和7年度 No. 9

048(829)2737

丙午（ひのえうま）の年のスタートに当たり～「情熱と強さ」をテーマに～
校長 永山 誉

新年明けましておめでとうございます。

関東地方は、穏やかな天候での年明けとなりました。「丙午（ひのえうま）※」の年のスタートに当たり、今年も子どもたちにとって、また保護者の皆様、地域の皆様にとって実り多き1年となりますようお祈り申し上げます。

※丙午（ひのえうま）は、十干（じっかん）の「丙」と十二支（じゅうし）の「午」が組み合わさった干支の一つで、60年に一度巡ってきます。火の要素を二重に持つことから、情熱や強さを象徴するとされています。

さて、皆様はこの年末年始をどのように過ごされましたでしょうか。お正月といいますと、毎年恒例の箱根駅伝の中継にくぎ付けになった方も多いかったのではないでしょうか。私は、毎年、選手の息遣いとともに、監督と選手とのやり取りを感じたく沿道で応援しています。今年の箱根駅伝も、往路区間で青山学院大学がトップと3分24秒差を5区の山登りで大逆転したり、往路17位から帝京大学が翌年のシードとなる総合9位まで順位を上げたりするなど、毎年のように生まれるドラマに感動するとともに、何か今年一年への活力がもらえたような気がしました。ここに紹介しました両校は、青山学院大学が今年のテーマを「輝け大作戦」とし、帝京大学は常に「日本一諦めの悪いチーム」として挑戦したりするなど、それぞれのチームのカラーがレースの中で發揮されていました。一人ひとりが輝くことは出場選手だけでなく、それを支えるすべての者が輝くということであり、この姿勢は、学校教育の中でも常にそうありたいと思っています。そして、何事にも諦めないで挑戦する心も、子どもたちに育てていきたい心の一つです。小学校教育において培われる力は、大人になってから發揮されるものです。箱根駅伝において発揮される力は、もちろん大学でのチーム練習において培われるものではありますが、その基礎となるものは、すでに小学校の生活において培われていると言っても過言ではありません。このような意味においても、子どもたちには小学校での生活を大切にして、この一時も無駄にせず過ごさせたいと考えています。「光陰矢の如し」です。そんなことを感じたお正月でした。

最後に、物事に挑戦するためには、成し遂げようとする情熱が必要であり、困難にも負けない、諦めない強い心が必要となります。一人ひとりが輝きながら自分の夢に向かって進むことができるよう、今年のテーマを「情熱と強さ」として、全教職員が一丸となって子どもたちを励まし支援してまいりたいと思います。令和8年もどうぞよろしくお願ひいたします。

「さいたま MY SCHOOL ファンド」を活用した本校への御支援へのお礼

令和7年は、「さいたま MY SCHOOL ファンド」を活用し、4月から合計8件の御支援をいただきました。御支援いただきました御寄付は、子どもたちの教育のため有効に活用させていただきます。ありがとうございました。

※「さいたま MY SCHOOL ファンド」とは、さいたま市の教育を応援したい方とさいたま市立学校をつなぐ、さいたま市『ふるさと応援』寄附を活用した仕組みです。さいたま市『ふるさと応援』寄附の使いみちの一つとして設定し、寄附者が応援したい学校を指定して寄附を行うことができます。(市のホームページより)